

前半は伊豆スタディ・ツアーの報告、後半は出前授業の準備を行いました。

## “居は氣を移す” 三溪お気に入りの田舎屋「南風村莊」跡を尋ねて

発表者：藤嶋俊會

先月の伊豆スタディ・ツアーの主な目的地「南風村莊」は現存しませんが、それを補うべく藤本實也氏のご子孫と漢詩の鄧先生にご同行いただいております。話を伺い、さらにまるでぶっつけ本番の旅番組のような偶然の出会いから思い出を聞き出すことができた様子が詳しく報告されました。南風村莊跡地の近くで商店を営む杉山栄一氏からは、三溪さんを「大旦那」と呼んでいたことや、杉山氏が子供の頃は南風村莊の風呂を使っていたことなどが語られ、さらに後日郵送していただいた敷地内の配置図が紹介されました。加えて、藤嶋さんがツアー2日目の朝の散歩中に出会った人物からも南風村莊の写真と住宅地図が提供されました。ツアーに参加できなかった会員も、この報告を聞くことで自分も行って来たかのような気分を味わうことができました。



## <原三溪の漢詩を読む> 南風村莊雜吟

発表者：福田治

研究会の漢詩分科会で三溪作の漢詩「南風村莊雜吟」を担当した福田さんから解説がありました。なお、この詩は大正12年以前の作と考えられますが、昭和4年に南風村莊は近所に移転したので、移転前の南風村莊を詠っていると思われます。「暖<sup>だん</sup>を逐いて南豆に遊ぶ<sup>めいざん</sup>名山我を導き来たる」の名山は葛城山か天城山かで解釈が分かれていましたが、スタディ・ツアーで確認した現地の様子を踏まえると、本牧からも見える富士山は伊豆長岡からの方が雄大で、これはまさしく富士山を指すと考えられます。



## 第三回 出前授業検討会

8月例会では出前授業で取り上げたい「伝えたい事項」を抽出する作業を各班で行いましたが、今回はそれぞれの班でその内容を共有して、まとめたものを模造紙に書くというような作業を進めました。次回の出前授業検討会は12月にあるので、そのときに班別の発表を行う予定です。

